

とであれば、また地区と業者さんとの間に入らせていただくことは可能かなと思ってございます。
以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

この買物弱者対策は、免許返納をしたくてもできないという高齢者の事故防止にもつながる取組です。買物に行く3回に1回のうちでもバスやタクシーが利用できたら、運転しない日が増えて、事故のリスクが減るかと思います。高齢者が健康で、住み慣れた地域で暮らし続ける、そんな糸魚川であってほしいと願います。

以上で、終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、田原洋子議員の質問が終わりました。

ここで暫時休憩といたします。

再開を45分といたします。

〈午後2時35分 休憩〉

〈午後2時45分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、中村 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。〔15番 中村 実君登壇〕

○15番（中村 実君）

創生クラブの中村です。

1回目の質問を行います。

1、糸魚川市の自然を活用した交流人口の拡大について伺います。

当市には日本海から北アルプス、そして約50キロメートルにも及ぶ海岸線など多種多様な自然が多くあり、観光においても有効に活用を図っているところではありますが、まだ多くの自然を利用した遊びや学び方があると思います。最近ではコロナ禍において、ソーシャルディスタンスを保つことができる野外でのアクティビティーが見直されており、市内でも多くの長野・松本方面からの車が見られています。また、最近では栃木や群馬・埼玉方面からの車も増えてきていることから、今後も糸魚川市内の自然の中で体験できるレジャーを知っていただき、また来たいとを感じるようなPRを行う必要があると思いますが、以下の点について伺います。

(1) 海の家は海水浴場にはなくてはならない風物詩ではありますが、現在は大和川に1軒と能生

地域に3軒と少なくなっているとともに、浜の整備にも影響が出てきています。海水浴は夏季限定の短い期間ですが、当市では有益な観光として貴重であります。そこで、これ以上海の家を減らさないよう今後どのような方策で海水浴客の増加を考えているのか伺います。

(2) 7月16日、17日に開催されたシートゥーサミットについて、当市では能生海水浴場をスタート地点とするカヤックをメインとする区間を担当し、好評の中、開催されましたが、運営体制や参加者など課題等はなかったのか。また、次回開催について伺います。

(3) 能生の浜ではジェットスキーやプレジャーボートなど、また能生川河口や百川・藤崎・筒石の浜では一年を通し、サーフィンを楽しむ若者が増えてきていますが、市としてサーファーとの情報交換など、連携した取組を行っているのか伺います。

(4) 過去にはトライアスロンやグランfondなど、海や山を使ったスポーツもありましたが、残念ながらやめることとなりました。この大会には多くの参加者とボランティアが関わり開催されてきましたが、やはりボランティア不足が大きな要因ではないかと思えます。開催当時は地域への経済効果も相当なものがあったと思えますが、できれば再度開催することにより、市外や県外から多くの参加があると思えますが、市としての考えを伺います。

(5) 糸魚川市は今後、海・山の自然を活用したアクティビティー体験者を増やす必要があると思えますが、お考えを伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

中村議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、従来の長野県などのファミリー層だけでなく、新たなターゲットやニーズ調査を行う中で、海での楽しみ方を見える化し、情報発信を行うことにより、海水浴を含め、誘客に努めてまいりたいと考えております。

2点目につきましては、細かな反省点はありますが、関係者の皆様のご協力をいただく中で運営ができたものと考えており、参加者からも好評いただいたところでもあります。来年度の開催につきましては、引き続き県や2市と連携してまいります。

3点目につきましては、これまで市内外のサーファー団体から積極的にビーチクリーン活動に参加いただいているところであり、引き続き意見交換等を行ってまいります。

4点目につきましては、過去に行われた事業はボランティアの確保に苦労されたと聞いております。事業継続には、理解あるボランティアに支えられることが必要と考えており、有償ボランティア等の今後考え方も含め、検討してまいります。

5点目につきましては、当市は海、山、川、雪など、様々な自然を活用したアクティビティーが可能であると考えており、ニーズを踏まえ、関係者と意見交換をする中で、新たなアクティビティーの拡大に取り組んでまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

2回目の質問よろしくお願ひいたします。

海水浴客といえば、過去に臨時列車で多くの人たちが海水浴場まで歩いている姿が私たちには風物詩ということで大変にぎやかな姿でしたが、最近では、もう食べ物を持ち込んでバーベキューをして帰るといふ人がほとんど多く見られるようになりました。それであっても、能生の場合は、浜茶屋があれば大体浜茶屋が満員になるという状態が見られております。

ところが、浜茶屋も午後の早い時間に帰るお客さんが多いということで、人件費がかかる割には、さほど利益が上がらないという状況であります。今年も、もう海の家も終わりましたが、来年は、できれば土曜日だけでもサンセットビーチを楽しみながら、長時間滞在していただいて、少しでもお金を落としてもらえるような対策を取る必要があると思ひますが、糸魚川市とか観光協会のほうから、そういうことを相談しながら発信していただきたいというふうに思ひますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えさせていただきます。

商工観光課が事務局の海の魅力アップ推進委員会のメンバーに浜茶屋組合が入っていただいておりまして、海水浴客の様子や現状につきましてお話を聞く機会を設けております。

近年は、コロナ禍の影響で浜茶屋の売上げが想定よりも伸びなかったとのお話であります。引き続きPRに努めますとともに、議員ご提言のとおり、サンセットビーチの魅力をどのように訴えていけるか改めて関係者と研究し、PR発信に努めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

今までも取り組んできていた事業だと思ひんですけど、夕日を見ながら出会いの場となるような、そのような取組をぜひ来年から開催していただきたいと思ひますが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

ご存じのように能生弁天岩の灯台は、恋する灯台プロジェクトにおける恋する灯台に認定されておりますので、今後、能生浜のエリアにつきまして、ご提言のような出会いの場としての取組も担

当課と一緒にしまして、検討してまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

ぜひ出会いの場の創出ということで、そういう考えも浜茶屋さんのほうへ話して、進めていただきたいというふうに思います。

また、能生事務所長、浜茶屋が減ってくると、浜の整備も少し荒れてきている。特に俗に言う磯辺地区、あの辺も浜茶屋がありますけど、浜茶屋の前の整備だけで終わってしまう。全体長い浜を見ると草が生えていたり、特に一番見栄えの悪いのは、大きな水たまりができてるといふ。あれも少し手かけることによって、そういう景観に悪い部分もなくなると思うんですが、その辺は来年あたりから整備していただきたいと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

能生浜もそうですが、今ほどおっしゃいましたのは、百川、びびら浜、そちらのほうの関係かと思いますが、地元のほうからも要望来ておりますので、所管の新潟県と連携する中で取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

予算もかかりますんで、市だけというわけにもいかないのか、県のほうでもお手伝いしていただければ、ぜひ浜茶屋全体、能生全体だと大体四、五キロぐらい砂浜があるので、そういった整備はしっかりして、砂浜を売り込んでいっていただきたいというふうに思います。

それから、最近では押上海岸のヒスイ拾い、大変多くのお客さんが来て、浜側の駐車場が満杯になっている状況が続いております。過去には浜茶屋があったわけですけど、浜茶屋がお客さんが少ないということでなくなったというふうにお聞きしていますが、この大勢ヒスイ拾いとかお客さんが来ているときでありますので、また押上海岸に浜茶屋を設置する人が出ればありがたいなというふうに私も思うんですが、その辺の打合せみたいなものはないもんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

中村議員のご指摘のとおり、テレビ放送の効果もありまして、押上海岸にはゴールデンウィーク

から多くのヒスイ拾いと思われる観光客に来ていただいております。交通の便や近くにコンビニがあるといたほかの海水浴場に比べまして、利便性が高いところでございますが、浜茶屋の営業や運営につきましては、民間事業者のところにお任せしているものでございます。

また、押上海岸は、現時点でも繁忙期は用意した駐車場が満車になるという課題もありまして、周辺一帯を考慮し、検討する必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

押上だけではなくて、いろんなところでヒスイ拾いが始まっているようなので、いい場所があれば、そういう浜茶屋も増やしていただければなというふうに思っております。糸魚川市は今、長野県人だけではなくて関東周辺からも多くのお客さんが来ております。マリンドリームや浜の駐車場を見ても、群馬や埼玉方面の関東方面から来ている車が多く見られます。今後は、海水浴やヒスイ、そして山遊びなど、ほかの魅力をプラスし宿泊者を、日帰りではなくて宿泊者を増やす取組を進めるべきだと思うんですが、いかがでしょうか。市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり自然を生かす誘客というのは、糸魚川市にとって大切であろうと思っております。そういう中で、おいでいただいたときに満足して帰っていただけるような環境が大事だろうと思っております。宣伝もさることながら、PRもさることながら、そういったところをどう考えていけばいいのか、以前みたいに先ほど議員ご指摘のように浜茶屋が混んで混んでしゃあないような時代もあったかもしれません。

しかし、今本当にどう運営すればいいかという非常に曲がり角に来とるんでないかと思っております。そして、そういった受け入れ体制、また施設をどうやっていくか、その辺をアクティビティを使うにはその辺がしっかりしてないと最近駄目ではないかな。ただ施設があればいいということではなくて、その施設はどう魅力ある施設であるのかということも問われる部分ではないかなと思ひまして、そういったところを我々はじゃあどういう形でやればいいのか、また、地域の皆様方や関係者とそういったところを詰めなくてはいけないのではないかなと考えておる次第でございまして、そういったところをいろんなイベントなり、またいろんな人たちとの情報を聞く中で、そういったことを考えておる次第でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

大変ありがとうございました。長野から来る人たちというのは、大体もう日帰りで帰ろうという

人がほとんどだと思うんですね。でも最近、関東方面から来る人が多いので、できればもうちょっと魅力があれば、もう一泊して帰るかという、そういう考えも出ると思うので、ぜひ魅力づくりをしていただきたいというふうに思っております。

最近では、ソーシャルディスタンスを保ちながらアクティビティーを楽しむという家族が多く増えております。その人たちのアクティビティーを探す。合ったアクティビティーを探す必要があると思います。糸魚川市は、そういうアクティビティーを探すには、海、山、川、里、いろいろなものがあります。そのアクティビティーをどのようにPRしていくのか、今後の考え方を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

私も中村議員ご提言のとおり、この糸魚川ジオパークの大地や自然、歴史・文化というステージで様々なアクティビティーを楽しみ、実践できる可能性があると感じております。今後も引き続き、観光客のニーズや受け入れ体制を見極める中で検討してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

糸魚川市はアクティビティーの倉庫、遊ぶ場所が幾らでもあるというところなんですからね。でも関連のネットを見ると、糸魚川はあまり出てこないんですね。アライリゾートとか、名立の、あれは何ですかね、ビッグボブスレー、ああいうやつが体験が出てくるんですけど、糸魚川市ちょっと調べたらあまり出てこない。ゼロじゃないですけどね。体験できるところが糸魚川幾らでもあるので、これからどんどんともう売り込んでいく。あんまりそっこのほうに目を向けてなかったというふうに思うんですが、今のうちにどんどんと売り込んでいくときだと思うんですけど、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えさせていただきます。

先ほども申し上げましたが、当市でできるアクティビティーは数多いというふうに考えております。特に笹ずし作り体験など、糸魚川の食文化や歴史に触れていただくような体験メニューもございます。旅行会社へ積極的なセールスやSNSなどの発信も工夫しまして、通年を通しての売り込みに努めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋産業部長。〔産業部長 大嶋利幸君登壇〕

○産業部長（大嶋利幸君）

補足して答弁させていただきます。

今、糸魚川市観光協会のウェブサイトでは、そういう体験メニューをまとめたサイトも作っておりますが、今言われましたように、海ではシートゥーサミットをきっかけとしてシーカヤックの体験ですとか、あと遊漁船、あと山に行きますとトレッキングとか登山、高浪の池でのサイクリングとか、そういう様々なアクティビティーが用意されておりますが、まだ情報発信が不十分ということもありますし、より皆さんから使いやすいようなものにしていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

ぜひ充実したいものを作っていただきたいというふうに思っております。

今、コロナ禍ということで、林、森林を使ったフィールドアスレチック、それが大変人気になっております。糸魚川市には、糸魚川市の多くが森林ですよ。そういうところに私有地が、市の森が、林があると思うんですけど、そういうものを活用して、フィールドアスレチックをPRしていくことも必要だと思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えさせていただきます。

フィールドアスレチックの整備につきましては、現在、当市で運営しておりますキャンプ場の拡充ということも考えられますし、新たに中村議員のご提言のとおり市の保有しているアクセスがよい山林を活用する方法もあると考えております。つきましては、先進事例を研究させていただきまして、整備可能な適地があるか考える時間を頂ければなと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

ぜひ林は幾らでもあると思いますので、いいものができるのではないかなというふうに思っております。これは家族連れで訪れて、体力をつけるということで大変、コロナから離れて、最近増えているということなんで、ぜひ糸魚川でもPRしていただければなというふうに思っております。

次は、糸魚川市の中で安全で有名な能生海水浴場なんですけど、西の防波堤を少し伸ばしたということで、西から砂が入ってこなくなり、その代わり冬になると北の弁天岩のところから大しけが入ってくる。そういったことで、弁天橋の西側ですか、海水浴場のあそこが掘れてしまって、大人でも背が立たないという状況が、もうずっと何年も進んでおります。今の状況だと、多分砂が入ってくることは、ここ数年、もう砂が全然入ってこないという。それはやっぱり安全な海水浴場に戻し

ていく必要があるのではないかというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

能生海水浴場につきましては、私も毎年利用させていただいております、以前から海底、砂浜の状態がどんどん変わっていることは十分承知しているつもりであります。何分、能生事務所だけではできないことありますので、新潟県と連携しまして、安全な海水浴場の実現に向けて努力してまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

能生事務所長も毎年見ておられれば分かるように、昔は子供でも歩いて、内海を全部歩けたという状況だったんですけど、今はとても大人でも歩けないというふうに。あれはちょっとしたことで直るのかなというふうに思いますけど、西の防波堤、堤防を伸ばして、県のほうへ行けば、そのときの写真とか図面があると思うので、元に戻すのか、少し掘ってもらうか、そういうことをやることによって、もう少し西からの砂が入ってくるのではないかなというふうに思いますので、ぜひ県としっかり検討していただきたいというふうに思います。

次に、（2）のシートゥーサミットですが、市長答弁のとおり、何事もなく無事に終了したということで私も喜んでおりますが、当日の4時頃は1.5メートルほどの波がありました。そのときは開催できるような波ではなかったんですけど、6時のスタート間近になっても波が収まらずに1メートル少しぐらい外海はあったんですかね。それで6時のスタートになると、不慣れな人や小さなカヤックの人は、大変危険ではないかなというふうに私は思ってたんです。だけど、スタートしたわけですけど、もう少し保安署、それから消防署、そして救護艇が出てたんで、そちらのほうともうちょっと密に連絡を取って、危険回避するためには、もう10分、15分とか30分遅らせることが必要だったのではないかなと、私、現地見てそう思ったんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えさせていただきます。

中村議員のご指摘のとおり、大会全体を通じて、打合せの機会も少なかったからかもしれませんが、関係者にはご心配とご迷惑をおかけしたことをおわび申し上げます。次年度以降は、やはり関係機関の皆様と密に情報交換・情報共有が可能な体制を努めてまいりたいと思っております。

なお、今回の大会では、海上保安署の職員の方を大会本部にも1名派遣いただきまして、消防本部とも常時連絡が取れる体制を取ってはおりました。次年度以降は、関係者共通の無線機等を

用意しまして、情報共有ができるような体制整備に努めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

今ほど海上保安署のほうは本部席にいたということですが、当日見ると、海上保安署の船は、随分、沖なんですよね。水深でいえば、多分150メートルとか200メートルぐらいの水深のところに保安署の船がいました。近くにいたのは消防署のゴムボート、それから警護艇が4そう、やはり近間の皆さんが走るところにいるところからの情報というのが大事だと思うんです。だから、ぜひ来年は、そういう密な情報を取っていただければなというふうに思っています。

結果的には、予報どおり波が、波は6時過ぎると0.5ぐらいに落ちてくるという予報はあったんで、そんなに心配はしてなかったんですけど、久しぶりに海を使った大会、トライアスロン以来の大会を行ったということで、参加者も能生の海を満喫してってくれたのではないかなというふうに思っていますが、市長も先ほどの答弁ありましたけど、朝から、スタートから大会を見られていて、最終的に大変いい大会だというふうに私は思ってるんですけど、今後も長く続けていていただきたいと思うんですけど、市長が当日、その大会を見ていてどのように感じましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私は、実際、目の前でカヤックを見るのが初めてでございまして、まさか乗れと、また言われたわけでもございまして、本当にそこまで言われたことは今までなかったわけで、見させていただく初めての事柄だったんですが、非常に私は、新たな展開ができるのではないかな。やはり海でやるというのはあまりない、全国の中でもあまり数がないみたいでございまして、また今回、非常にスタートできるのは、弁天浜からできるということで、非常にスムーズなスタートができるという話も聞いたり、そうしますとやはり弁天浜の活用の中においては、非常に利活用の幅が広がっていくのではないかなということを感じさせていただきました。

しかしながら、今、議員のお話にありましたように、波の高さが60センチぐらいであっても本当にジェットコースターで乗ってるようなときもあるぐらい感じるという話もお聞きして、酔った人もおられるみたいな話もありました。それぐらいやはり、また非常に自然というのは、外で見るのとやってるのでは違うなというのを感じたわけでもございまして。

しかし、糸魚川市でそういうイベントができるというのは、非常に私といたしましても、今、議員ご指摘のようにアクティビティの広さというのを非常に感じた次第でございまして、ほかのことで断られた部分があって、妙高市から提案で、上越市、糸魚川市も含めて、この大会が成り立ったということを本当に感謝しながら、さらにまた来年もぜひ県と連携しながら取り組んでまいりたいと思いますし、県の関わりが3年だと言われとるんですが、3年たってもやはり必要だということで、今ほど言いました議員ご指摘のように弁天浜の活用の中で、不都合な部分については整備を

していただくことも、また必要ではなかろうかなと感じた次第でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

海のスポーツは本当に久しぶりなんですよね。トライアスロンのときは、前夜祭から、もう大変にぎやかに開催されて、いい大会だったんですけど、残念ながら終わってしまったんですが。

産業部長もさっき言われたみたいに、今後も発信していくわけですけど、今まではどっちなかという海ってあまりなかったんですね、海水浴ぐらいしか。今後はカヤックとかいろんなものがあるんで、そういうところもしっかり発信していただければなというふうに思いますし、県のほうでも3年間予算づけをするということで、3年間は開催されると思うんです。間違いなく開催されるんですが、4年目から尻すぼみになっていくんじゃないかなというのを心配してるんです。やはり3市で密に相談しながら、これを長く継続していかれるようにしていただきたいなというふうにお願いするとともに、大西課長、カヤックの反省会、本部のほうでは分からないこともやっぱりいろいろあると思うんで、早めに反省会して、来年につなげていければと思うんですけど、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

実行委員会において、本大会全体の振り返りに会議につきましては、今月下旬の予定というふう聞いております。

なお、今ほど中村議員おっしゃるように、糸魚川だけの会議の予定は今のところはありませんが、やはりカヤック競技につきまして、運営主体の糸魚川地域振興局と反省点を含めまして、糸魚川市、市観光協会の情報共有をしまいたいというふうに考えております。

また、当該大会につきましては、先ほど市長からもお話ありましたが、4年目以降の県補助は、現状見込めておらないために、大会開催の財源の確保と併せ、ボランティア体制も含む実行委員会の運営体制などの検討も必要でありますことから、今大会を契機に3市連携を今以上に強化しまして、取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

ぜひやってください。

それから、今回のシートゥーサミット、能生はカヤックだったんですが、あまり糸魚川市にお金が落ちなかったような気がするんですよね。一番よかったのは上越市、なぜかという、上越市で前夜祭が行われました。多分そこそこのお金も落ちたのかなというふうに思っております。これは

取りあえず3年間あるんですが、前夜祭というのは、持ち回りになるのかどうか。例えば来年は妙高、その次は糸魚川というふうに持ち回りになるのかどうか、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

当初の話合いの中では、持ち回りの話ということで出ておりました。

しかし、今まで開催された実行委員会の会議の中では、今回の大会をどのように首尾よく終わらせるかが次第となっております。次回の詳細につきましては、いまだ話合いになっておらず、詳細のほうは決定してはおりません。

しかし、本市としましては、できる限り前夜祭のシンポジウムを開催いたしまして、当市のアピールにつなげたい考えでありますことから、平等に3市持ち回りになるように働きかけてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

前夜祭は、最低でも持ち回りですよ。できれば参加者のことを考えるならば、糸魚川市で開催しなければいけない。なぜかという、上越市でやって、例えばお酒を飲む。能生へ来れないということになれば、上越市で泊まって、朝早く能生へ来て、準備をしなければいけない。でも糸魚川市でやれば、朝、糸魚川市から出発するわけですので、やはり参加者目線でこういうことは会議の中でもしっかりと要望していただきたい。全て糸魚川でということじゃあないですけどね。参加者のことを考えたらというところで、話を進めていただきたいなというふうに思っております。

今回のシートゥーサミットで、カヤックという乗り物を間近で見たのは、多くの人が目の前で見たと思うんですよ。カヤックというのは、手軽に遊べるスポーツ、この辺だとサーファーがサーフィンやってるのはよく見るんですけど、カヤックというのは、能生のB&Gで練習するぐらいのやつを見るぐらいであんまり見たことなんですけど、今後、愛好家が増えてくるんじゃないかな。

また、能生の浜は、しけてても内海なら練習ができるということなので、カヤックも海のアクティビティとして今後しっかりと売り込んでいく必要があると思うんですけど、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

今大会の開催当たりまして、6月にジオパーク協議会主催によりますカヤック体験イベントを能生海岸のほうで開催させていただいております。参加者からは、非常に好評でありまして、能生の

海岸でこのような遊びができるんだということを市民へ広くお伝えできたのではないかなというふうに考えております。

今後の展開につきましては、まずはどのような形で普及や運営を行っていくかについて、関係者の方々と意見交換を行っていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

カヤック今回、カヤックあったんで、カヤックというふうにみんな思うんですが、サップやウイークボードそれから釣り、そういったもんも海の遊びとしてあるんですが、取りあえずカヤックは簡単に遊べるということで、そんなに高いものではないんですよ。ぜひしっかりと売り込んでいただきたいし、もしできればクリアカヤックという、海の底がこういうガラスできてて、プラスチックで海の底が見えるという、そういうやつもありますので、それだと浅い海なら海底が見えると子供が大変喜ぶんじゃないかなというふうに思いますので、そういうところも今後PRをしていただければというふうに思っております。

次に、サーファーとビーチクリーン活動について、伺います。

サーフィンを楽しんでいる人のほとんどが、長野県人であります。あまり地元の人というのは、そんなに多くはないんですが。ごみ拾い、ビーチクリーン活動になると長野の一番トップの人が、リーダーが皆さんに声がけをして、集めて掃除を行うということでもあります。この活動を見て、県のほうでも何かの機会を捉えて、この活動をPRしていきたいというふうに言っておりました。

糸魚川市でも、その人たちと一度コミュニケーションを取って、話し合いをする機会を持ったほうが良いと思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

市でもビーチクリーン活動について、海の魅力アップの観点でSNSでPRのほうを行っております。今後は、クリーン活動だけではなく、長野県のサーファーや市内のサーファーを交えまして、海でのマナーやアクティビティの普及、糸魚川市の観光の魅力など、様々な面で意見交換を行える場面をつくり、新たな連携を探ってまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

サーファーもばらばらで、私、遊びに来てるのかなというふうに思ってたけど、結構しっかりとした組織にはなってるようなんですよ。浜の掃除だとか、いろんなマナーが良いということで、地元の藤崎地区でも、区の駐車場を無料開放したとか、それとか一緒にバーベキューをしたと

かというふうに交流も進んでおりますし、そういう大きな掃除では、ビーチクリーン活動でなくても、来たときはごみを拾って帰るといふ、そういうふうなことも一生懸命やっております。このサーファーの取組、こういうものを地元の子供たちにも美化運動として意識づけていく必要があると思いますが、教育長、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

鶴本教育長。〔教育長 鶴本修一君登壇〕

○教育長（鶴本修一君）

お答えいたします。

長野のサーファーと一緒に地元の子供たちがごみ拾い、クリーン活動をするというふうな機会については、なかなかできる場所とできない場所がありますので、そこら辺り学校のあるいは地域性の立地条件によって参画できる場合とできない場合があるというふうに思います。糸魚川市内の子供たちも、SDGsの関係、あるいは環境協議の関係で、地元の浜に目を向けて、とにかく海のプラごみあたりが今現在、子供たちの問題意識の中に相当高まっております、各学校でそれぞれの取組を進めています。

そういった取組の中の一環として、でき得る学校についてはそういった長野のサーファーかどうか、それは分かりませんが、いつ、どこで、どういうふうなことがやられるのかというふうな情報がありましたら、学校にも周知をしていただきながら、やっぱり少しでもそういった交流の場を通して、地元の子供たちとそういった海を楽しむ人たちとの交流の場に位置づけることができれば、大変さらにまたいろんな活動が発展していくのかなというふうに思っています。ありがとうございました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

この前の新聞にも柿崎と長野の人たちが浜掃除をしたという、柿崎の子供たち、浜掃除をしたというのが出ていましたけど、ぜひいろんな取組してありますが、こういうのも考えていただければなというふうに思いますし、次のビーチクリーン活動は、今月の第3日曜日の18日だそうであります。9時から掃除をするということなんで、これに参加してくれということじゃないんですけど、もし通って、そういう若い人がいたら声がけを、ご苦労さんというような声がけでいいんでしていただければ喜ぶのではないかなというふうに思います。

それから、先ほども言いました能生浜の海水浴場、これは7・8月は海水浴があるので、ジェットスキーやプレジャーボートは下せないということになっておりますが、5月の連休、それから9月、10月の土・日や連休になると、多くの人たちがジェットスキーやプレジャーボートへ集まってきます。やはり多く集まると、小さなトラブルというのがありますが、車路の入り口をふさいで、ほかの人が出入りできなかつたというようなこともあります。今のところ大きなトラブルはないのですが、トラブルのないうちにしっかりとルールをつくって、看板の設置等をしていく必要があると思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

中村議員のご提言のとおり、能生海水浴場だけではなく、全市一体でのルールづくりが必要と考えております。今後、全国の様々な先進地もあるというふうに聞いておりますので、事例を参考にさせていただきながら、関係します県や機関と協議し、検討のほうをしてみたいと思っております。

また、看板等のお話も出ておりますが、現在、ジェットスキー等を使われる方がおられるということで、能生海水浴場にプレジャーボートや水上バイクの利用者に、利用区域や徐行運転などのマナーを守っていただくための看板設置のほうは予定させていただいております。現在、観光やレジャーで海に来られる方は、インターネットで事前に情報を確認してまいりますので、詳細なルールが徹底した段階には、ホームページや、また海の情報サイト、アプリ等に掲載させていただきまして、関係機関ともリンクする中で周知徹底のほうをしてみたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

ぜひよろしく願います。看板だけだと、どうしても大きいことしか書き込めないんで、やはり細かいルール、毎年ジェットスキーでの事故が日本中で、また死亡事故も発生してますので、ぜひそういう細かいルール、先進地をそういうのを見ながら、しっかりと決めて、今ほど課長が言われたようにアプリや市や観光協会のホームページで見れるような、商工会もそうですけど、そういう体制をしっかりと取っていただければなというふうに思っております。もう既に先週の土・日には、多くの方が浜でキャンプをして、ちょっと、なぎが悪かったんでね、ジェットスキーは来なかったようですが、ボートが来て、何そうか出ておりました。早急に警察や海保、そういうところと話をしながら、県もそうですけど、ぜひ進めていっていただければなというふうに思っております。

次に、（４）のトライアスロンとグランfondです。トライアスロン、私好きで、出たことないんですけど見てたんですけど、今回のシートゥーサミットを私、初めて見せていただきまして、スイムやってバイク、シートゥーサミットは、カヤックの部分スイムに変えることによって、トライアスロンになるというふうに私思ってるんですよ。だから今回のボランティア体制だとか、そういうものもしっかり次のときに活用できるようなトライアスロンの方法を考えていけるんじゃないかなというふうに思うんですが、トライアスロン、能生事務所長のほうが詳しいんじゃないですか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

競技の性質上、シートゥーサミットは、どちらかというレジャー性が高いイベントかと思っております。

ただ、トライアスロンにつきましては、順位ですとかタイムを競う競技でありますので、若干の危険性が高まるものと思っておりますので、今回のノウハウ等をどのように生かせるのか検討してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

全然一緒というふうに、まるきり一緒とは思わないんですけど、単純な流れをいえば、カヤックを泳ぎに変えるだけでトライアスロンと同じ競技ができるという、そういうふうに私思ってるんですね。だから、今回のボランティア体制とかそういうノウハウをしっかりとそのときに生かせればなというふうに思ってます。

それから、この前行われた佐渡のトライアスロンですけど、あれは市でつくる実行委員会、それが主催してやっておりました。糸魚川市でも、今後、トライアスロンやグランfondを開催する気はないですか、課長に聞いたほうがいいのかな。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

能生で行われている事業でありますので、能生の事務所のほうから答えさせていただきます。

現在のところ、市として実施する予定はございませんが、新たな実行委員会等が立ち上がりまして、どんなお手伝いができるかということを検討させていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

佐渡のトライアスロンですが、参加費がAタイプが4万円、Bタイプが3万5,000円、それからチャリティー枠が10万円ということで、大変な金額ですが、1,800人ほど参加があったということで、相当の前日に、またカーフェリー、相当の経済効果があったのではないかなというふうに思っております。

今のところ民間では、トライアスロンという話は出ておりませんが、グランfondを何とか復活させたいという話が今、能生で少し、ちらほら出てきております。米田市長もグランfondに参加されたことがあると思うんですけど、グランfondをぜひ地元でも、小さい規模から復活させたいなという今話があるので、その辺は市長としてどのようにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常にグランフンドは、全国的にも非常に名前が通っておりまして、私といたしましては、なくなるということは非常に残念に思っておるところでありました。今そういう機運が高まるといことは、非常にうれしいことでありますし、また、ぜひ復活してもらいたいなどは思うんですが、やはり中止になった一つの理由というのは、やはりいろいろあるかと思っております。そういったところをどのようにしっかりと実行委員会なりボランティアなりが進めていくのか、そして行政がどうやって連携を取っていくのかということところが大事かなと思っております。なかなかやはり実行委員会の皆様方は、本当に少数の人たちが苦勞されてやってきた部分があるのかとも思うわけですが、実行委員会なり、また、いろんな組織全体で、そういったところを支えていけるという形が大事なのかなというのを感じておる次第でございます。

もし立ち上がったとしたら、しっかり支えていきたいと思っておりますし、また、魅力ある我々この自然を持つとるわけでございますので、それを最大限生かすのには、非常に有効なアクティビティーだと思っておりますので、ぜひ私たちがやはり応援しながら、連携を取っていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

よろしく申し上げます。

前回のグランフンドは、市とかそういうところには頼らないんだということで、頑張ってきたんですけど、全然頼ってないわけじゃないんですけど、今、立ち上げようとしている人たちは、取りあえず小さな規模でやっていこうよと。市にお願いしなきゃいけないのは、やはり草刈り、道の草刈りだとか、ちょっと抜けてて危ないようなこととか、そういうところの整備はしっかりとやっていただきたいという話は今のところは出ています。どういう話になっていくかは分かりませんが、もし立ち上がったならば、いろいろと協力してもらおう部分が出てくると思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

また、この大会が本当に大きくなってくれば、経済効果は相当なものがあると思ひますので、ぜひうまくいくようにしたいなというふうにお願ひしております。

次に、（5）アクティビティー体験、私は、パラグライダーがどうかなというふうに、その中の一つとしてパラグライダーがどうかなというふうにお願ひしております。過去にシャルマンやシーサイドバレーからも飛んでいましたが、いつの間にか飛ばなくなりました。糸魚川市はスキー場を2つ持っているんで、飛ぶところは最低でも2か所はあるわけですよ。これもアクティビティーの目玉の一つになるというふうにお願ひんですけど、パラグライダーだと、事務所長が、また詳しいと思ひますので、能生事務所長いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

シャルマン火打スキー場内では、平成11年から17年までスキー場の中でパラグライダーの団体が利用しまして、パラグライダーの活動を行ってございました。現在、シーサイドバレースキー場では、令和2年度から開始してございまして、市民スポーツ教室等に利用されてるといふふうに承知しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

あんまり知られてないんですね。だから、もう少しパラグライダー飛べるんだというところをもう少しPRしていただきたいと思います。飛ぶところのちょっと整地と、それから降りるとこの草刈り、それか整地すれば道具はみんな持っていきますので、そんなに大変なものではないというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

それから、スキー場ですが、パラグライダーではないんですが、スノースクート、それからスノーモトという、俗に言うジェットバイク、ジェットスキーといいますか、ジェットスキーじゃないんだな。サーフボードにハンドルをつけて滑るというそういうものなんですが、シャルマンの場合は、パウダースノーがあるんで、大変滑りやすい、楽しく滑れるということなんですよ。だけど今、スキー場には、スノースクートしかレンタルで置いてない。そうするとちょっと新雪、またはそういうところを滑るのに、物足りないということで、今後、スノーモトも置いてもらいたいという要望が上がっているんですけど、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

議員おっしゃいますとおり、スノースクートのレンタルはあるんですが、スノーモトは、現在装備しておりません。利用者のニーズを把握する中で、必要となれば指定管理者のほうに促してまいりますというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

スノーモトのそういうグループがあって、この5月の連休にシャルマンへ来たそうなんです。でも環境はすごくいいんですけど、残念ながらスノーモトがなかったということを書いてましたん

で、ぜひそろえていただければなというふうに思っております。

時間がないですが、海洋高校2年生がカヌーのインストラクターの資格を取得して、来年開くイベントで子供たちに教えたいというふうに頑張っているということです。これから海から山へ、山から里へと四季を通じ遊びを体験できるアクティビティー体験者を増やしていく必要があると思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

今ほどのお話の一例となりますが、今回のシートゥーサミットにつきましては、海洋高校の生徒をはじめまして、遊漁船組合、B&G海洋クラブ、かつてのグランフォンドの関係者の皆様からのご協力によりまして、無事開催できたものと考えております。今大会によりまして、経験やノウハウを持った皆様との関係づくりを築くことができましたことから、引き続き協力いただく中でシートゥーサミットを継続し、受け入れ体制を強化し、観光関係者も巻き込みながらアクティビティーの体験を拡大していければよろしいかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

今、世間では、コロナを恐れて、いろんところで、林の中とかいろんところでそういうスポーツを楽しむ人が増えていますので、ぜひ糸魚川の魅力を発信していただきたいと思います。

以上で一般質問を終わります。

○議長（松尾徹郎君）

中村議員の一般質問が終わりました。

ここで暫時休憩いたします。

再開を55分といたします。

〈午後3時43分 休憩〉

〈午後3時55分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、田中立一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田中議員。〔12番 田中立一君登壇〕

○12番（田中立一君）